

## （公財）神戸大学六甲台後援会だより（75）

昨年の6月に「大学の評価疲れ申請疲れに対する方策に関するアンケート」の依頼が内閣府から事務を通してやってきました。同アンケートは話題になり、毎日新聞にも記事として取り上げられました。質問票がエクセルのシート形式で配布され、シート数が全部で14枚にも及び、質問項目が130を超えるほどだったからです。余りの質問の多さに、このアンケート自体が疲れをもたらすという皮肉な結果となったわけですが、その後送られてきた内閣府の別のアンケートがウェブフォームで回答する形式であったことも相まって筆者は別の感想を抱きました。

エクセルのシートの方はファイルの情報を見ると、内閣府の職員が作成したことが分かります。ウェブフォームで回答を用意するようなスキルや資源がないと一見思わせます。一方のウェブフォームのアンケートの方は内閣府のサイトに設けられています。作者が誰であるかはすぐには分かりませんが、ただ中央省庁や地方自治体の多くと同じく外注で作成したことが伺われます。筆者が文部科学省に仕事で出かけていたときは、重要な政策事項であるにもかかわらず、大手のシンクタンクに政策形成の根幹部分を任せていました。もちろん省内で十分議論するので問題がないといえれば問題はないのですが、二つのアンケートを通じてアンケートを作成する側の事情が垣間見えてきます。アンケートをうまく作成するスキルを磨く時間がない、増大する一方の仕事の中で余裕を持って目の前の仕事をこなすこ

とができないという事情です。評価をされる側の疲れは問題ですが、する側の疲れも問題になることは看過されがちです。消費税のインボイスなども徴税側の作業の多さは問題にされませんが、制度の根幹を揺るがすような事柄です。

ということを思いながら、自分自身で六甲台後援会についてのアンケートを作成してみようと、ふと夏休みごろに思いつきました。六甲台後援会はいろんな事業を行っていますが、それらの事業についてどれほど理解されているか、いやそもそも知っているのかについて心許なく思ったからです。思い立ったら実行するのは早い方がいいと思います、筆者が中心になって導入を進めたKAISER2022（教育研究用計算機システム）の中にあるMicrosoft Formsを用いて六甲台の先生方に聞きました。アンケートを取る際に心がけたことは、①アンケートの所要時間を明記すること、②アンケートの結果を先生方に後で知らせること、③アンケートの結果を今後の活動に何らかの形で活かすこととの三つでした。設問は全部で8問で、選択式が6問、自由回答が2問でした。所属と職位を聞いたあと（2問）、「学生に対する凌霜賞は六甲台後援会の資金で授与されています。このことを含めて六甲台後援会の活動内容をどの程度ご存知ですか？」「今まで六甲台後援会の資金援助を得て、海外渡航、出版を行ったことがありますか？」「科学研究費獲得を推進するための「研究プロジェクト支援」をご存知ですか？」の三つを聞きました。そして最後の設問に対して「「研究プロジェクト支援」をご存知の方にお聞きます。」申し込んだことがある or 申し込んだことはないかを聞きました。申し込んだことがない方に対し

てその理由を次の設問で聞き、最後の設問は六甲台後援会の活動内容についての意見、要望を聞きました。

筆者が特に知りたかったのは研究プロジェクト支援がどれだけ認知されているかでした。研究プロジェクト支援というのは、科学研究費（科研費）助成事業に申請して採択に至らなかった課題についての再申請支援の事業で、残念ながら科研費の採択に至らなかった研究テーマについて、一定以上の開示結果であれば研究費を支援して正規に採択に至るように支援しようとするものです。41名の回答数のうち、研究プロジェクト支援を知っている方は18名、知らない方は23名で、知っている方のうち実際に申し込んだことがある方は6名になりました。

知っている方が半数にも満たないことに驚きましたが、新任の先生もおられる中、この制度についてきちんと説明してきたかどうかについては疑問が少し残っています。早速常務理事会でこのアンケートの結果を報告し、きちんと先生方に周知するような方策を議論しました。また後援会の活動内容について、まとまった情報がほしいというご意見がありましたので、活動内容をまとめたパンフレットの電子ファイル版を各部署の総務係を通じて配布してもらいました。事業の一覧については凌霜の前々号（凌霜438号）の六甲台後援会だよりをご覧ください。お手元にはない方は凌霜会のホームページの会員専用ページの電子ブックアーカイブからご覧になれます。

あれだけ多くの事業を後援会は行い、研究・教育の発展に尽力しています。このアンケートによるものかどうかはわかりませんが、ある部局では新たに寄付を後援会にしていただけ先

生が増えました（部局長による後援会についての丁寧な説明と依頼があったとその後聞きました）。

末筆になりますが、アンケートに回答していただいた先生方、お時間をとって回答していただき有難うございました。またアンケートのお手伝いをしていただいた各部署の総務係も有難うございました。いただいた貴重なご意見の数々を後援会の今後の活動に活かしていけるよう議論していきます。

（経済学研究科教授 玉岡 雅之）  
（編集部註・この欄は前号より玉岡教授に執筆いただいております）

いつも皆様のご寄附誠にありがとうございます

前号でご報告させていただいた以降、11月8日現在でのご報告となりますが、多くの皆様からご寄附をいただいております。誠にありがとうございます。

金額別に、小林哲夫様（昭33経営）千円、市野貴之様（昭59法）、芝元憲太郎様（平9経済）各2千円、奥井秀穂様（平3法）、木下 武様（昭33経営）各3千円、高田由貴子様（平7法）、廣本 忠様（昭28経済）、萩原泰治様（昭55経済）、橘高史尚様（平26経済）、三木正弘様（昭43経営）、山口裕康様（昭61経営）各5千円、辻 雄史様（昭34法）、島津久也様（昭35法）、福島有恒様（昭36法）、木村三男様（昭45法）、渡辺 昇様（昭50法）、四宮孝郎様（昭52法）、杉岡 治様（昭52法）、竹田伸也様（昭54法）、檀上晃利様（昭34経済）、城井康信様（昭34経済）、五百旗頭邦夫様（昭35経済）、田納郁也様（昭36経済）、堀野 勲

様(昭37経済)、大西茂雄様(昭42経済)、岡島源一郎様(昭43経済)、柴田伸一様(昭43経済)、村主慶一様(昭35経済)、藤原達也様(昭38経済)、小山保和様(昭42経済)、水上明彦様(昭45経営)、森本浩三様(昭53経営)、朝位 克様(昭55経営)各1万円、浅沼健三様(昭46経済)、池永 滉様(昭37経営)、瀬野鋼太郎様(昭46経営)各2万円、橋本 隆様(昭31経済)3万円、福本哲也様(昭32法)、戸田 宏様(昭38経済)、宮下國生様(昭41経済)、土谷 昭様(昭43経済)、瀧端美博様(昭49経済)、吉井昌彦様(昭56経済)、匿名 様(昭60経済)、坂根利彦様(昭40経営)各5万円、大道一雄様(昭35経済)、稲垣滋様(昭45経済)、宮野 淳様(昭42経営)各10万円、鶴 浩一様(昭32経済)20万円、曾根 準様(昭34経営)50万円、静進会《経営学部海道ゼミ・代表世話人金原正展様(昭34経営)》117万7千121円ご寄附をいただきました。

また、毎年、社会科学系4研究科及び経済経営研究所の先生方をお願いしているご寄附についても次のとおりいただきました。部局順に法学研究科先生方42名の12万6千円、経済学研究科先生方35名の11万2千円、経営学研究科先生方51名の18万円、国際協力研究科先生方22名の6万6千円、経済経営研究所先生方21名の6万3千円です。毎年、先生方には大変ありがとうございます。

お陰様で、本号で新たに報告できる寄附金額は34万7千5百121円になりました。新年度4月以降の寄附金額は648万7千421円になりました。厚くお礼申し上げます。

毎回お願いしています寄附金の送り先は左記のとおりです。

よろしくお願い申し上げます。また、本財団ホームページからも「寄附(クレジットカードによる)寄附、インターネットバンキングによる」ご寄附等)いただけますのでご利用ください。よろしくお願い申し上げます。

◎銀行送金の場合(メール・電話・FAXでも結構ですから、送金のことについて事務局にご一報ください)

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合(通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください)

口座番号 0098019116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎本財団ホームページからのご寄附

ホームページ「ご寄附」のWEB申込みフォームからご寄附いただけます。<https://rokkodafund.com/>

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX(078)861-3013

E-mail:k-koenkai@rokkodafund.com